

【第3回（仮称）「平戸観光交流センター（レストハウス）」整備活用検討委員会会議概要】

1. 日 時

平成29年4月24日（月） 午後2時00分～午後4時00分

2. 場 所

平戸市未来創造館 1階ホール

3. 出席者

（1）委員

西岡 誠治（委員長）、山本 芳久、神田 全記、道添 直徳、木村 孝市、前川 栄治、
木寺 敏夫、古賀 義浩、丹澤 明、小楠 一二三、小高 理恵 計11名

（2）行政

議会事務局…白石班長
（事務局）

文化観光部…松田部長 観光課…藤田課長、田中主任主事、奥村主任主事

（3）議題（1）における聴取対象者

（一社）平戸観光協会…藤澤会長、松瀬

4. 議事内容

1. 開会

2. 議題

（1）（一社）平戸観光協会の要望内容について

○委員長

- ・本日は、事務局によりレストハウス周辺の施設利用者に対するニーズに関するアンケート調査が実施されたので、その点の説明を頂くのが中心になる。
- ・その前に、前回、平戸観光協会の要望書が提出されたと報告があっていたので、本日は観光協会より出席頂き、この要望書の内容についてヒアリングをさせて頂くのでよろしくお願いしたい。まずは観光協会より要望内容のご説明をお願いします。

●平戸観光協会会長

- ・要望というか、希望というところで、どうしても存続をさせて頂きたいという気持ちのうえから、前もって要望書というかたちで提出をさせて頂いた。
- ・経歴的な話をすると、観光協会がレストハウスにお世話になってから21年となっている。
- ・私は会長を引き受けてから8年目を迎えているが、大体のことはわかっているつもり。

- ・レストハウスもすっかり観光の拠点として定着をしているところであり、これをまた別の場所に移して改めてスタートするというのも、これは観光客の方にもしっかり定着しているので。リピーターのお客様、平戸を愛してくれる観光のお客様が“あそこに行ったら全てわかるよね”というところがかかり周知できているほうではないかと。
- ・思い切って移して、新たな拠点を造ってやっていくというのも、良いかもしれないが、今の平戸の情勢でいくと、それはちょっと冒険かと思う。
- ・平戸観光協会の定款、目的は「市民が誇りと愛着を持つことのできる地域社会の実現と交流人口拡大による地域経済の活性化を目指す」。その目的を達成するために、観光資源の保全、開発、整備、観光客の誘致宣伝、そしてもう1つが観光土産品の開発及び宣伝、販売、更に観光案内所の事業…こういったところを柱として進めている。
- ・そして、私達の事務のし易さと言うか、観光客の目線から考えたときに存続が必要かと思う。
- ・レストハウス周辺には様々な文化施設がある。お互いに相乗効果を上げられるようなエリアだと思っており、観光客や市民の皆様が集うところ。
- ・飲食部門もできるかと思うが、それで市民と観光客が話をできて、非常に和やかな雰囲気ができるかと思っており、そういうところをやっていきたいと考えている。
- ・売店部門においては、収益事業の一つとしてやっている。観光交流と物流、特産品の交流も一緒にやっていくというのが主義で、商工会議所と話しはしているが、人の交流とモノの交流は一緒にしなければならない。
- ・売店も売り上げというよりは、商品の紹介の場。そこで平戸の品物、ブランドを見て、町に出かけて、そして買物をして頂くという、アンテナを含めてやっているため、ぜひ続けてやっていきたいと思う。
- ・案内所と事務所は、今一つになってやっている。観光客が来られた際には事務仕事は止めて、お客様に第一にあたっている。併設しているとお客様に合せた説明の仕方などもできるが、これが別々になると人も多く要る。財源も限られているため、併設してやっていくことが良いかと思う。
- ・後の細かいことは、協会職員と一緒に来ているので、質疑の中でお答えしていききたいと思う。

○委員長

- ・それでは、会長よりご説明頂いたが、この件についてご質問等ないか。

○委員

- ・世界遺産登録が今後予定されている中で、安満岳、中江ノ島、春日集落、その他にも野崎島の野首教会、上五島の頭ヶ島などがあるが、地域開発として、観光客の集客が、海岸、海、栈橋に集中してくると考えている。その戦略やお客さんが入ってこられた際の対応の仕方。協会としては崎方地区ではなくて既存のレストハウスで十分対応できると考えているのかについてお尋ねしたい。

●平戸観光協会会長

- ・案内所は2箇所3箇所あって問題ないと思っている。今ターミナルでは46,000名を対応している。
- ・案内所は2箇所あった方がおもてなしの観点では良いかと思う。

●平戸観光協会職員

- ・補足する。世界遺産登録を控えている中で、観光拠点が複数あることは問題ないことだと思う。
- ・市からの委託を受け、平戸市観光案内所を崎方町のターミナルで行っているが、会長が申したとおり年間 46,000 名が来られており、ここで全ての観光客対応が集約できるかという点、そうではないと思っている。
- ・レストハウスですが、年間 30,000 人前後の観光客の方が訪れており、更に平戸城は 65,200 人が来ており、非常に幅広く観光客が回遊している。
- ・生月では、道の駅が案内業務を行っている。観光案内施設は観光施設の拠点、拠点で必要になってくるものと考えており、全て崎方に集約するのは違った話かと思う。我々観光協会としては、できる限りの場所で様々な観光案内業務を行っていきたいと考えている。

○委員

- ・観光案内所を一括に集約するのではなく、それぞれの拠点に案内所を置くとなると、それだけ経費がかかる。協会としては、拠点、拠点で案内所を維持していきたいというお考えなのか。

●平戸観光協会職員

- ・“できる限りで”という人たち。市から委託料を受けてやっているのが、崎方町のターミナルと田平天主堂。田平天主堂は教会守ということで受けているが、教会守が観光案内を行っている。
- ・レストハウスでは、売店事業の売上によって人を 3 名雇って、営業の傍ら観光案内を行っている。
- ・生月道の駅についても、同じように道の駅の収益含め、市から委託費があっているか存じてないが、そういったかたちで運営されている。他にも瀬戸市場。多くの観光客が来られるが、やはり物販で売り上げた分でレジ等だけでなく観光案内も行っていると思う。
- ・私どもとしては、あまり市のお金を使わず、観光協会の事業として無償の観光案内を取り組んでいきたい。

○委員

- ・先ほど、レストハウスに行ったところ、観光客に対しても丁寧な観光案内を行われており、やはり観光客に対してはプラスの効果になっているのだと直に体験した。
- ・ただし、レストハウスの位置的なことを考えると、観光客にとってもメリットというのはすごくあると思うが、図書館を利用している一般市民、または商店街にとって観光協会がメリットとして挙げることはできるものは何かあるか。

●平戸観光協会職員

- ・確かに、市民の方から“観光協会ここにあったの”と言われることは非常に多くある。観光協会は外への発信をメインにやっており、市民向けになかなか認識がないということはある。
- ・ただし、今は未来創造館ができ、市民の方の来訪も非常に増えてきた。売店にも一般の方も入ってきており、平戸のお土産を知る機会や、市民がパンフレットを多くとって頂ける環境にもなった。市民の方から観光の問い合わせの機会が非常に増え、とてもうれしく思っている。

- ・市民の方にレストハウスに来て頂いて、平戸にはもっといいものがたくさんあるんだということを知ってもらいたいと思う。
- ・今まで外への発信をメインにしていたが、市民向けへの発信も今後取り組んでいきたいと考えている。

○委員

- ・私が言いたかったのは、例えば観光協会は観光客向けと言うが、商店街などの商品開発であるとか、あるいは商店街とタイアップとか、所謂、商店街が潤うための施策も、ある意味大切だと思っている。
- ・市民向けに“ここにありません”というのではなく、市民に観光協会から商店街に向けて、このようなものを開発してはどうかと提案する、あるいは、観光協会で商品化、宣伝する。
- ・個人的には、観光協会は色々な所との繋がりがあるので、そういった進んだもの、あるいは国内だけに留まらず全世界的なものを提供していくのが必要になってくるのではないかと思いお尋ねした。

●平戸観光協会会長

- ・検討されているレストハウスの機能は様々な方向性で議論されているように伺っており、私として“絶対こうしてほしい”というものではない。
- ・文化系の様々な施設があるので、うまくマッチングしてすばらしいエリアにしていきたいという思いは我々も一緒。その中で我々の仕事もさせていただきませんかというお願い。

○委員

- ・最初に会長より、現状の平戸の情勢から場所を移転するのは冒険と伺ったが、私はレストハウスに関しては観光協会の事務所は不必要ではないかと思っている。売店と観光案内に関しては一部残して良いかと思っている。
- ・大きく変わるせつかくの機会なので、冒険であることをマイナスに捉えるかチャンスに捉えるかは考え次第になるが、ここにあるよりは田平側にあるほうが良いのではないかと思うがどうか。

●平戸観光協会会長

- ・事務所と観光案内所を併設した方が、人間的にも行ったり来たりしなくて済むし、スムーズな流れになると思いますが、事務所だけ別となると、作業も行ったり来たりとなる。案内所が事務所と併設しているほうが効率性は高いかと思う。
- ・ご存知のとおり平戸のホテルの経営者も変わっており、“観光協会もなくなったのか”と思われたくない面もある。

○委員

- ・観光交通ターミナルに売店機能は作れないのか。ターミナル内には自転車が10台ぐらい置いてあり、商店街のものを売るアンテナショップとしてこのスペースを活用すれば売店の売上はかなりあがると思う。

●平戸観光協会職員

- ・平戸市観光交通ターミナルは、建設初めから売店が置けないものが議論した経緯がある。
- ・ターミナル周辺は土産屋が多いエリアとなっている。レストハウス周辺は平戸城の売店のほか、土産物がないエリアとなっている。ターミナルが出来たときに売店をするという話もあったが、観光協会の会員も周辺にたくさんおり、営業圧迫と言うか、ダメージを与え兼ねない可能性もあった。
- ・ターミナル自体も施設内で収益事業をやってはいけないというのが最初であり、売店事業をしていない経緯となっている。今は状況変わって、収益事業をやってよいのではないかということになっているが。実は西肥バス横の空きテナントにて（商店街側が？）売店をしようという話しが進んでおり、観光協会としては一旦、手を引いている状況。

○委員

- ・確かに他を圧迫するという事実はあると思うが、競争というのはものすごく大事で、競争がないといものは生まれにくい。みんなぶつかり合うのを嫌がるのだけれど、良いようにぶつかっていく…人と人とを繋げて、うまくコミュニケーションをとって、競合するというのは、お互いがよりよい方向に向かうために競争する。できれば競争があることが平戸の発展に繋がっていくのではないかと思う。

○委員

- ・会長の説明で、内容の理解はできた。観光協会が色んな方面で頑張っておられ、大変ありがたい。
- ・事務所のことで言わせてもらおう。商店街は本当に疲弊している状況であるため、例えば、観光協会が商店街の方に構えて、町の人達と距離を縮められたような格好で、より状況を良くすることも考えられないかと思う。このような考えは協会では何かないか。

●平戸観光協会会長

- ・全くやってみないということではない。インフォメーションという点では、数年前にまちかど案内所が整備され、それぞれにパンフレット等が置いてある。お客さんが来たら声をかけてください等とのお願いも店舗にしている。実際にどこまでやっているか今は調べてないが、商店街とは色んなコミュニケーションをとってはいるものの、見えた形になっていないのは事実。今後気をつけて頑張っていく。

（観光協会退席）

（2）平戸市の観光戦略について

□事務局

- ・会議資料①「平戸市の観光戦略について」、参考資料②「市道 大手坂・亀岡線（路線番号 1251）に一方通行に関する事」について説明。

○委員長

- ・第2回の委員会において宿題とされていた事項について事務局より説明がなされた。これについて何かご質問、ご意見はないか。

○委員

- ・一方通行の件。前回委員から提案がなされて、良い案だなと思っており、先ほどの説明の中で、できない理由を色々教えて頂いたが、逆にできる発想で考えると、出口側となる部分の右折は厳しいが左折はいけると思う。右左の見通しは良いし、出るのは問題ないかと思う。
- ・“大型車両はだめで一般車両は大丈夫”というかたちをとれば。

□事務局

- ・基本的には、レストハウスが新たに整備された後に観光導線が著しく変化したり、大きな交通状況の変化が生じる場合には、今回のような一方通行の変更等の考え方というものも選択肢として検討、判断していく必要もあるかと思う。

○委員

- ・交通状況に合わせてという回答だったが、将来を見据えたかたちでの協議を明日からとは言いませんが、近々に始めてもらいたいと思う。世界遺産関連の事業もスタートするだろうし、この辺りはスピード感をもって対応が欲しい。

○委員

- ・ここに観光協会が事務所、売店など図書館がない頃から使ってきている歴史があるし、そういう意味では観光客に対しての売店の意味合いは強いと思う。
- ・観光協会を商店街に移すとなると、場所が必要だし、家賃がかかってくるのでマイナス面も出てくるかと思う。
- ・一方通行の話で大賛成なのは、大型バスは入れさせず、レストハウスから出るときも城下通りを通らせれば、交通は逆にスムーズになると思う。
- ・レストハウスが観光拠点となれば、ここが一番、観光案内はしやすい。平戸城は見える、教会は見える、松浦資料館は見える、目で見た全体の観光案内がこの場所ではできる。観光案内所の集積場所としてここは良いと思う。

○委員長

- ・前回会議の宿題として、市の基本的な観光戦略については、ご説明内容でよかったと思うが、一方通行については、事務局の説明に対し、委員から、この地を更に拠点として地域を高めていくためには、継続して考えてはどうかとの意見であった。引き続き、可能性としては検討しても良いかと思う。
- ・この議論はここまでにして、非常に重要な前回絞り込んだ機能に対するニーズ調査の議論に移りたいと思う。

(3) 機能のニーズ調査結果について

□事務局

- ・ 会議資料②「(仮称)「平戸観光交流センター(レストハウス)」機能ニーズ調査結果」、参考資料③「機能ニーズ調査を踏まえた観光動向について」について説明。

○委員長

- ・ 以上に対してご意見をお願いしたい。

○委員

- ・ 主な意見がカフェということだが、レストランとの回答も非常に多かったと。これはカフェとレストランを併用するようなものなのか、軽食等を含めたカフェなのか、カフェの中心についてどのように考えるか。

□事務局

- ・ NHKとの整合性を踏まえると、カフェはコーヒー等の提供、加えて軽食は店舗等で作られたものを持ってきて販売提供というイメージを持っている。
- ・ レストランとしてはそこで調理したものを提供するといったイメージを持っているので、そういったものまでその場で調理するといったことはカフェではイメージしていない。

○委員

- ・ レストランに対する要望が多いことを踏まえると、カフェ機能、プラス定食などを提供するレストランをすることができれば両方を兼ねそろえた施設になるのではないかと思うが…どこの何の業者が入るかわからないが…その辺りの考えは。

□事務局

- ・ NHKの整理で説明ができる。波及性という面において、レストランとしてしまうと結局、食堂ということになってしまう。こうすると、商店街店舗と競合する可能性、他の飲食施設にも影響が生じる可能性もある。こういったことを踏まえると、カフェ機能のみになるのではという考え。

□事務局

- ・ 食堂的な意味合いをもったレストランと、サンドイッチ程度の軽食のカフェの範疇での絞り込みがこの先にあるかと思っています。
- ・ 具体的に0か1かの話しをすると、現時点ではまとまらないので、軽食・カフェの部分は今後の議論として念頭においておくということをお願いする。

○委員長

- ・ あえて、ここで言葉の厳密性は要求はしていないということで、受ける言葉の印象で皆さんに議論頂いているが、資料からとれる印象としては、軽い食事と飲み物ぐらいを出すと。

○委員

- ・できれば、商店街から限定 10 食の弁当などそれらを限定販売というかたちで提供できるような自由度があってほしいと考える。
- ・カフェでは、焼き飯やカレーなどは出ないのではないかと。カフェというのは基本的にコーヒー、紅茶、ケーキ、サンドイッチ等といったもの。焼き飯やカレーは商店街に行って頂いた方が良い。
- ・機能をあれもこれもというのではなくて、多目的スペースにせよ、子供の遊び場にせよ、カフェ自体も、自由に入って自由に過ごして自由に出ることができるといったスペースがあればあるほど、心地よい空間になる。お金を払わなければそこには居られないというのは、すごく居心地の悪いイメージがついてしまう。

○委員

- ・事務局側から機能を整理して挙げて頂いているが、私的にはまだまだ機能が多いと感じる。絞り込みが必要。絶対駐車場がパンクすることが予想できる。
- ・駐車場がないと、今度はクレームになる。仮に一方通行を変更し亀岡グラウンド駐車場を利用してもはグラウンドゴルフ等あっていればトラブルは出てくる。
- ・結局、機能の内容を濃くすればするほど、駐車場等のクレームに繋がっていくので、実際の建物の大きさも含め、機能と共にコンパクトにしていく必要があると思う。

○委員長

- ・駐車ニーズをどこでどうカバーするかという問題はある。

○委員

- ・今の機能案というのは、未来創造館の補完的な意味合いが強いと思う。そうではなくて、新しい施設は、極端に言う観光に特化したものがよいと思う。
- ・この施設の何十年も先を見据えた姿を考えると観光に特化した施設。勿論カフェ等は必要。しかし、例えば子供の遊び場とか、持ち込み飲食などは私は不要と思う。

○委員

- ・何か目玉がないというのが率直な印象。
- ・これからの将来というのは世界が相手だと思ふ。観光客が相手ではないと思ふ。観光客のおとすお金は、外国人の場合一人当たり2万円らしい。これはある統計を見たときに書いていた。
- ・例えば、ユーチューブなんかの一つのチャンネルをつくって、平戸の物産あるいは商品を売ることができるようなものをつくってあげれば、国内、全世界に売ることが可能だと思ふ。
- ・やりたくても、そういう方法を知らない方がたくさんいるので、そういうスキルを教えるような場があればすごく楽しい。できればそのスペースにカメラがあって商品を撮ってということが一つの施設の売りにできないか。

○委員

- ・駐車をどうしようとしても見てのとりの広さであり、これ以上の駐車場スペースもできない。だから、この新しい施設を造るにあっては、老人がスムーズに入れるような状態、状況をつくっていくべきではないかと私は思う。

○委員

- ・駐車場が足りなくなるというのは勿論そうで、それだと、そもそも人がたくさん来るような施設はつくれない話になる。やはり駐車場が足りなくなるほど皆さんが望む施設をつくって、そのうえで駐車場をどうするか考えることが重要。

○委員

- ・駐車場の件は、本当に難しい問題。ただ、若い人達は歩いてこれる。文化センター裏の駐車場は広く空いているスペースもあるかと思うので、そちらからレストハウスまであがってきてもらうアピールが必要。文化センターとレストハウスを繋ぐ陸橋を工夫して楽しく歩ける…運動がてら文化センターからこれるような何かできたら。
- ・委員意見のように、やはり世界を相手にしていくというのは平戸の将来的に大切だと思うので、私が個人的にアンケートをとった方からも、ITに特化したものであるとか、ちょっと先進的なものを取り入れられないかという意見もあった。
- ・定期的にできた後も、機能について話し合えるような、柔軟性のある機能を予め決めておいて将来的に考えていくことが重要。

○委員

- ・駐車場の問題。良いものを建てれば当然お客様は増える。増えた人は新しくできた施設で賄わなければならない。そうした場合にレストハウス周辺の段の部分の部分を2階にして地下に車をもっていくような格好にすれば、数千万かければ駐車場になる空間がいくらでもある。
- ・多機能施設という格好で、昼は観光客が使って、夜は公民館団体が使えるような状態。そして子供達や老人を連れてこれるような仕組みにしてはどうかと。大きなホールが必要。機能毎に2、3区切りできればいい。
- ・未来創造館が狭い、会議室が足りないということはわかっているので、そういうことを補完する施設であって、観光客だけが使う施設として整備するならば利用率が20~30%程度になりかねない。利用率を90~80%の常に使われる施設であるほうがよい。

○委員長

- ・駐車場の件は一巡したように思える。駐車については、機能が決まって、その結果として駐車ニーズが出たときに今の周辺を踏まえてどうするのかを考えるということで、もう一度、議論を機能の方に戻したい。

○委員

- ・実はスペインにマジョン広場というものがあるが、できればフリーマーケット的なものがやれないか。
- ・半日、できれば個人的に1,000円ぐらいで場所を貸してもらえたら、そういう物々交換を試みたり、物を売ったりだとか…スペースさえあればできる。そこに商店街の方が何か持ってきて販売されても良いのではないかと。自由度の高い空間があれば、すごく心地よい場になる。

○委員長

- ・更に機能を絞り込めるのではないのかという意見があった。
- ・また、少し観光の視点が足りないといったご意見、新たなニーズ・価値を創造するようなそういう提案も織り込みたいというご意見もあった。
- ・これだけの利用者がいるのに軽食をとれるスペースがなく自動販売機の飲料の場所しかない。ちょっとした食事をするにも町に出るか弁当を買ってくるか持参するしかないという状況は多くの利用者が、不満、不便に感じていることであると。これはアンケート結果に現れていたのかと思う。
- ・一方で本格的なレストランは、入れる店舗によって、好評不評の差が激しすぎるので、食事は気軽に買えるものがよいのではと。しっかりとした食事目的の方は商店街や瀬戸市場等の方へ出向いて頂き、使って頂くというのが、今日の議論では良いのかなと。重要な方向性が見えてきた。
- ・ただ、新しい価値を生み出す多目的施設ということについては、今の視点には入っていないので、これについては継続して検討する。
- ・これまで積み重ねてきた議論、それに基づく市民アンケート、そして前回の議論の方向性が違っていなかったことが確認でき、それに基づいて、皆様のご意見も出たのかと。
- ・それに加えて、利用が高まることによる駐車場のニーズをどうカバーしていくかが課題として残るが、それは機能を絞り込んだ後での対応とする。
- ・新たにレストハウスに導入する機能としては、事務局提案のこのような機能でよいか。最後に委員から補足することはあるか。

○委員

- ・資料の機能の中には観光案内、情報発信という項目が抜けているが、これは事務局として念頭にあるのか。

□事務局

- ・今回の資料は、あくまでニーズ調査の結果を踏まえて考えたときに、こういった機能が望ましいといえると提案させて頂いたもの。観光案内については、特産・土産物販売に関してはニーズ確認がとれているため、実際販売をする際には、併せて観光案内も必要かと思う。

○委員長

- ・他にはいかがか。(→特になし)
- ・それではここで締めくくる。

□事務局

- ・皆様から頂いたご意見はこの事業に活かしていきたいと思う。
- ・議論の経過等については、逐一、議会の方にも報告していき、進捗を図っていくことになっており、委員としても産業建設委員会の委員長、副委員長にも出席いただいている。
- ・所管事務調査については議会事務局と調整しているが、議論内容は報告させて頂く。

3. 閉会